

# ぼくのノオト

## ⑤3 祈りの海に

「トリチウムは、染色体異常を起こす」「母乳を介し、胎児に残留する」。そのような研究報告はチェルノブイリ原発事故以前からあった。トリチウムを大量に放出する力ナダの原発周辺地域では、新生児死亡率や小児白血病の増加が指摘され、泊原発のある泊村と隣の岩内町では、がんの標準化死亡比が北海道内で一位、二位となっている。

福島第一原発では、トリチウム汚染水を薄めて海に流すという。決して「無害」とはいわない一方で、問題を「風評」にすり替えているのは意図してなのか。

有機水銀・カドミウム・アスベストなどは、環境放出を防ぐため、厳格に管理されている。しかし当初、それらの有害物質は野放し状態で、多くの人たちの犠牲が黙殺されていた時期があった。

ならぬものはならぬ。今いちど命の原点に戻り、祈りの海と向き合えないだろうか。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操